



築理会 会報

東京理科大学工学部建築学科校友会

2016 Autumn vol.58



トピックス・イベント

表紙写真：平成 28 年度築理会総会・懇親会記念写真（1 期生（1966 年卒）より、今春卒業の 51 期生（2016 年卒）まで）

神楽坂校舎近代科学資料館前にて

- * 平成 28 年度築理会総会・講演会・懇親会が 5/28（土）に開催されました
- * 「築理会女子の集い」が 11/5（土）に開かれます、多くのご参加を
- * 『理工系の基礎 建築学— 国立西洋美術館から学ぶ』出版記念講演会 10/16（日）（詳細：インフォメーション）



CONTENTS

- 2 P 1 期生と築理会
平成 28 年度築理会総会懇親会開催
- 3 P 第一部卒業制作築理会賞審査会
築理会女子部会
AIA から名誉フェロー会員称号授与
さようなら、飯田橋駅西口駅舎
- 4 P・5 P 「倉渕研」紹介対談
- 6 P 熊本地震に遭遇して
- 7 P 会員の勤務先集計～名簿データより～
ちくご会ゴルフ
- 8 P 平成 27 年度決算報告
インフォメーション
編集後記

平成 28 年度築理会総会懇親会

5月28日(土) 15:00より神楽坂の森戸記念館において、来賓、教員、院生等を含め60名の出席者により平成28年度の総会・懇親会が開催されました。

総会に先立ち、本学で出身の秋山仁先生による「建築とデザインの背後に潜む数理」に関する講演があり、由美かおるさん等のアシスタントのもと、大変ユニークで興味深いご講話を約1時間に亘りお話しして頂きました。

引き続き総会の後、本学の「近代科学資料館」の前で、参加者全員による記念写真を撮り(表紙参照)場所を理窓会館 PORTA6 階の理窓会倶楽部に移して、懇親会を行いました。

懇親会の始めに講演会にご出席された秋山仁先生と由美かおるさんによるアコーディオン演奏が



ありました。このようなサブライズは懇親会では初めての事なので参加者一同感激

し、会が一層盛り上がりました。

本会は毎年5月に開催されますが、築理会年会費未納の方でもご参加できますので、女性の方や初参加希望の方もお気軽にお出かけください。今後も楽しい催しや講演などを企画する予定ですのでよろしく願いいたします。

開催日等詳細は築理会ホームページや本会報にてお知らせしております。

(渡辺一男 1972年卒)

築理会と一期生



昭和41年(1966年)の産業界はオリンピック景気が一段落し、卒業生にとり就職不況の年でした。私が就職した会社も採用者数が前年度の半分という状況で、学年担当の先生をはじめ、研究室の先生方は生徒の進路に大変苦労されたことと思います。其のお陰で、各方面に就職、進学できたことは、建築学科を創設された、浜田先生、二見先生のネームバリューが多分にあったと思います。以来50年の歳月が流れました。

築理会の創設は、我々の卒業数年後に学内に残っていた有志により「築理会名簿」の発行から、そしてその12年後(1983年)、築理会としての実質的な活動が始まります。これは福島氏の尽力によります。目的は会則に示しますように、会員の親睦をはかり、会員の研鑽を相互に支援して、建築および文化の発展に寄与することですが、我々1期生は、社会へ出ても学科の先輩はいなく、同輩の拠り所、各種の相談の窓口的な存在から始まり、将来学校との密着を深め、卒業生の大学での活躍の場の支援を視野に入れ活動してきたと記憶しております。

しかしながら、我々は高度成長期の真ただ中に社会へ出て、仕事に追われ働き詰めであったように思います。皆で集まれる機会(同期会)が開かれたのは、卒業20年頃からと記憶しております。初期の同期会の会場は、同期が参画した建物、郵政省「ゆうぼうと」、丹下先生が設計した「赤坂プリンスホテル」で行いました。

その後、建物の見学を兼ねて「目黒雅叙園」で行った後は、幹事が手配可能な場所で、5年単位で開催しております。35周年は「品川プリンスホテル新館」、40周年は「ホテルパシフィック東京」で行い、45周年は場を関西に移し、滋賀県の「長浜ロイヤルホテル」で夫婦同伴可で行いました。また、48周年には、八ヶ岳で、高原散策の会を旅を兼ねた催しを行い、卒業生の要望に沿った活動も展開しております。今回は最大の節目時となる50周年記念の特別同期会を東京の「ザ・キャピトルホテル東急」での開催を予定しております。大掛かりな開催はこれが最後になるのではと思っております。なお、同期会は35周年の会を機に、2002年から11月中旬に、有志を中心に毎年定例的に東京で開き、2007年からは場所も「理窓会倶楽部」とし、メール連絡を主の案内としております。特別な年以外は、11月第3木曜日17時から開いております。懐かしいと思う方は是非お出かけください。歓迎いたします。

同期の現状ですが、1期卒業生は79名で、亡くなられた方は10名、住所不明1名、連絡が取れない方が4名となっております。築理会の運営面では、初代会長を初め、3代、4代、5代の会長職を担当し、次の世代にバトンタッチしております。築理会の規模も益々大きくなり、同窓生同士の交流はもとより、学校、学生との交流の場への広がりも出てきております。また、女子会の発足と、運営面でも充実し、今後の発展が期待されますし、期待しております。

(三松一宇 1966年卒)

1部建築学科 築理会賞審査会

平成28年2月13日(土)、一部建築学科卒業制作築理会賞・審査会が葛飾校舎研究棟7階で行われた。この審査会は学科主催の卒業制作プレゼンテーションを兼ねて行われている。審査員長は村井達也(日建設計・1987年卒)、山本力也(SANNAパートナー・2000年卒)、虎尾亮太(隈研吾建築都市設計事務所・2005年卒)の3名である。学生のプレゼンテーションは午前中も行われていたとのこと。午後のこの審査会には12作品が残り、学生、審査員との質疑の末、作品は5作品に絞られた。この中には学科での卒業制作最優秀作品の宮田紀一君の作品も入っていた。さらに残った3作品の一つの中には、中国人留学生支小咪(シ ショウマイ)君の作品もあった。そして、僅差の末、最優秀に選ばれたのは三武良輔君の作品である。



高校時代の三武君と卒業制作作品

以下は三武君のコメントである。「この度は、卒業制作において築理会賞を頂きとても光栄に思います。高校の頃、夢もなく遊び倒していた渋谷での生活を通し、多くの文化を生み出す都市の力強さに魅了されました。それ以降“都市と空間を通して世界をよりよくしたい”という理念に基づき建築の勉強に邁進して参りました。卒業制作ではベトナムにて、都市内部のスプロール空間を基線道路沿いに三次元に展開させた郊外開発を提案しました。今後はさらに視野を広げ、よりよい世界の実現に向かってさらに努力を重ね、多くの提案を実現していければと思っております。」

なお、平成27年度、他の築理会賞は下記です。
第一部建築学科:支小咪(成績)、第二部:中川勝貴(成績)、鈴木智子(設計) (大岩昭之1968年卒)

さようなら、飯田橋駅西口駅舎

長年親しんだ飯田橋駅西口駅舎が姿を消す。ご存知のように飯田橋駅ホームは急な曲がりであったので、



新宿側にホームを延長、それに伴い西口駅舎も立替えになる。その間は日本歯科大体育館側に臨時の改札口。8月から使っている。

築理会女子部会発足



昨年の準備会を経て、今年度より「築理会女子部会」が正式に発足しました。部会長は14期の稲垣雅子、副部会長は22期

の高橋潤子が務めさせていただきます。理窓会女子部会、大学側の女性活躍推進会議とも協力連携しながら建築学科OGの輪を広げて、理科系女子の社会における活動支援に貢献していきたいと思っております。世代を超えて建築を語り、情報交換をし、仕事や職場での悩み相談から趣味まで幅広く、楽しみながら交流できる場を一緒に作っていきましょう。

10月30日(日)に葛飾キャンパスで開催されるHCDでは講義棟3階305教室で築理会女子部会による子ども達を対象にした「家の福わらい」のワークショップを実施予定ですので、是非お立ち寄りください。また第一回「築理会女子の集い」を11/5(土)(詳細インフォメーション)開催いたします。

今後のご案内をお送りいたしますので、下記よりご連絡をお願いいたします。(稲垣雅子 1979年卒)
メールアドレス chikujo@planetgear.net
フェイスブック www.facebook.com/chikurikajoshi

AIA から名誉フェロー会員称号授与



アメリカ建築家協会(AIA: The American Institute of Architects)は、8万人を越える会員の中から毎年、フェロー会員の称号授与を行っており、今年は158人が選ばれた。この中には外国人建築家も数名含まれ、私は9名の名誉フェロー会員のひとりに加えられた。その授与式は毎年各地で巡回開催されるAIA大会のうちに、その街の「磁力のある建築」で行われる慣例がある。今年はフィラデルフィア開催で、ヴェンチャー・スコット・ブラウンによって1997年に改修されたアーバイン・オーディトリウムが会場だった。式典では、同時選出のチリやノルウェーの建築家らと隣り合わせになり、彼らがそれぞれの国で建築家として社会的責任を誠実に果たしてきた姿勢に触れることができた。彼らと<志>を共有できた有意義な機会であった。なお、フェローは現役であり続けなければならないので、この称号を受けたことで、あらためて背中を押される思いがした。

(佐野吉彦 1979年卒)

気付いてみれば工学部建築学科の最古参となった倉渕隆研究室。研究室の四半世紀の歴史を、今は関東学院大学准教授として活躍する倉渕研究室7期生の遠藤智行氏(1999年卒)とともに振り返る。

(インタビューまとめ 安達功:1986年卒)



倉渕隆教授

倉渕: ぼくが理科大に来たのは1992年の4月、33歳のときでした。気がついたら24年が経ち、工学部建築学科の研究室では最古参になりました。

先日、倉渕研究室の1期生たちに会ったのですが、見た目も含めて、皆、あまり歳が変わらなくなっている印象でした(笑)。それもそのはずです。当時のゼミ生は21歳とか22歳くらい。10歳程度しかぼくと変わらないわけですから。

遠藤: そんな倉渕研究室に私は、99年に7期生として入りました。ちょうど当時は、通風を力学モデルとして解き明かすことが世界的にも大きな関心事になっていた時期で、非常に活気がありました。

倉渕: 省エネの機運が高まり、パッシブ建築の手法として通風が見直されていた時期でした。いかにユニークな通風の力学モデルを打ち立てるかに多くの研究者が力を入れ、国際的なワークショップも開催しました。



対談：理察会倶楽部にて

インターナショナルワークショップ・オブ・ナチュラルベンチレーションというワークショップを、3回にわたって日本で開催し、3回目は理科大が中心となって準備を進めたのです。遠藤さんは、ちょうどそのころに理科大の助手として骨を折ってくれたんだよね。

遠藤: 2003年から2009年にかけて、かなり大規模な国際ワークショップを開



ワークショップで司会する倉渕先生催しました。大学や建築研究所で、空調にかかわる海外の著名人も呼んで、今から思うと、とても大変でしたが、とてつもなく面白かったですね。

倉渕隆教授 博士(工学) 略歴

- 1982年 東京大学工学部建築学科卒業
- 1984年 同大学建築学科修士課程修了
- 1985年 同大学建築学科助手
- 1992年 東京理科大学工学部建築学科専任講師
- 2003年 同大学建築学科教授



前橋地方合同庁舎(2015)

株式会社 安井建築設計事務所

代表取締役社長 佐野吉彦

大阪・東京・名古屋・広島・福岡・仙台・上海・北京・ハノイ・台北・バンコク

www.yasui-archi.co.jp



遠藤智行氏

倉渕先生もいましたから(笑)。それだけ真剣勝負で向き合っていた証ではないかと思えます。

倉渕: ぼくは東大で放任主義の指導を受けてきて、ある意味でそのマイナスの面も見てきたから、激しく面倒を見るという真逆の方針をとるようになったのかもしれないですね。理科大生のよいところは、根本が素直で、責任をあずけるとその責任を全うしようと、とことん努力する点。企業やほかの学校と研究をすることも多いのだけれど、これは強く感じるところです。

遠藤: 私は2007年に関東学院大学に着任し、今は外から理科大を見る立場にあるわけですが同感ですね。研究テーマに対しても、スクラムを組んで一体となって取り組んでいく、よい印象があります。ところで倉渕先生が最近、取り組んでいるテーマはどんなものでしょう？

倉渕: 最新のテーマでいえば、パッシブハウスの性

倉渕先生の研究室は目配りが利いているというか、当時から面倒見がよかった。学生と一緒に考えていく方針が徹底していた印象です。その分だけ、学生にとっては厳しかったといえるかもしれません。ゼミ中の議論で緊張のあまり倒れてしまった学生

能評価などがありますね。新しいパッシブハウスのプロジェクトの性能評価を手分けしてやろうという話があります。アンケートなども交えながら、通風の効果なども評価していきたい。遠藤さん、ご一緒にどうでしょう？

遠藤: 興味深いオファーをありがとうございます。私も今は自然換気や地熱利用の効果などを測定する研究に取り組んでいます。例えば設備の維持管理に資するデータ収集を目的に関東学院大学の研究棟などを実地の題材にしながら、研究を進めています。倉渕研究室のほかのテーマはどんなものがありますか？

倉渕: 業務用厨房の省エネ対策と排気捕集性能の客観評価手法、データセンターの高効率空調システムの開発などに取り組んでいます。それから神楽坂街区で実践しているドライミストシステムについての環境改善効果の評価なども最新のテーマです。

通風にしてもそうですが、これまであまいにしか位置付けられなかった効果や価値を評価する方法を開発していくことが、テクノロジーの進化やイノベーションを後押しすることにつながるのではないかと考えて取り組んでいます。



ドライミスト: PORTA 神楽坂

遠藤智行氏 博士(工学) 略歴

- 1999年 東京理科大学工学部建築学科卒業
- 2004年 東京大学博士課程修了
- 2004年 東京理科大学工学部建築学科助手
- 2007年 関東学院大学工学部建築学科専任講師
- 2013年 同大学准教授

回転貫入鋼管杭ジー・エクス・パイル

G-ECS PILE®

基礎杭に、新たな価値を創造する。

昭和48年工学部建築学科 代表取締役 三輪 富成
平成5年工学部建築学科 技術本部長 小林 俊夫

株式会社 三 誠
SANSEI INC.

Tel: 03-3639-5226 Fax: 03-3639-8162 Mail: info@sansei-inc.co.jp
〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町4-3 国際箱崎ビル3F

北海道営業所 / 東北営業所 / 新潟営業所 / 北関東営業所 / 茨城営業所 / 千葉出張所 / 神奈川出張所 / 関西営業所 / 中国出張所 / 九州営業所 / 沖縄営業所

空気力で振動を断つ。
エア防振フロア
(特許第5903316)

株式会社 三誠 AIR断震システム
http://www.airdanshin.jp/

究極の振動対策

建物の階層を隔てるコンクリートスラブと床の間に気密空間を設け、空気のクッションを作ります。振動の強弱に応じて空気圧をコントロールし、常に床全体を空気で浮揚させているため、振動が構造躯体に伝わりません。

エア断震システム 検索

「グオー・・・・・・、ガタガタガタ・・・・・・」
何ともいえぬ轟音とそれに続く揺れ！！地の底からの音（いわゆる地鳴り）と激しい揺れに襲われたのは、2016年の4月14日21時26分だった。それは、父の葬儀を終え、初七日の夜だった。近親者7名でくつろいでいた所を突然襲ったのだ。筆筒、食器入れ等がひっくり返し壁も少々崩落し大変な状況。それでも何とか寝る場を確保して、余震の続く夜を過ごした。翌朝、家の内外を点検。案の定、2階の土瓦の棟は吹っ飛び赤土が露出し、1階の屋根は落下した棟瓦等でかなりのダメージを受けていた。又、周囲のブロック塀は崩壊し、異様な光景が広がっていた。すぐにブルーシート・ロープ・土のう等を確保すべくホームセンターに駆けつけ何とか3張り確保し、応急の屋根補修を15日に終えクタビレはてて雑魚寝をした。
その夜（正確には、4月16日1時25分）得体の知れない怪獣がまたもや襲ったのだ。
今回は、おそらく5・6匹居たのではなからうか。ものすごい音と強烈な揺れ・・・・断続的に襲ってきた。あたりは真っ暗、7人のうち2人は91歳、83歳の老人。逃げ出すこともできずひたすら怪獣が通り過ぎるのを待つ他なすすべがありませんでした。1時間後の2時30分頃からやっとおとなしくなってくれました。
その夜は、7人で真っ暗闇の中で皆の無事を確認しあってホットした。
夜明けとともに避難場所を探し始めました。サッシ・扉は、開かない。壁は崩落し住めるような状況ではない。又、余震（本震？）が来るのではないかの恐怖でいっぱいでした。
幸いにも母屋の前の新築アパートの1室に避難する事ができ、つらい中でもそれなりの避難生活が過ごせたのは、亡くなった親父の助けが有ったのかなと感



半壊した実家の屋根

謝しています。自宅は、震源地の益城町から直線で約10キロ程の所です。前震・本震が震度7なのでおそらく震度6強ぐらいの揺れを経験しました。しかも2回・・・・・・。又、震度4から6程の地震は短時間の内に10回ほど味わったこととなります。さらに震度1以上の地震は、1900回を超えたと聞いています。去る6月に帰熊したときに、空港から益城町を通って見ましたがその惨状は・・・・・・。あたり一面、全壊・半壊・崩落・地割れ等目を覆うばかりでした。覚悟はしていたのですがこんなに悲惨な事になっているとは・・・・・・。自然の驚異の前には人間は無力だなとあらためて思いました。又、親戚が沼山津にいたので立ち寄ってみたら家は全壊、誰もいないので心配していたら庭先のビニールハウスの中で老夫婦が生活していました。避難所より快適だといって・・・・・・。今は、被災した家の修復のため業者探しに一生懸命。せめて屋根だけでも台風シーズン前に修復したいのですが・・・・・・。業者が確保できても、完了時期の約束は困難・・・・・・。なんとか年内にはと思っている今日この頃です。
(乙丸勝範 1971年卒)



いい暮らしを、創る。
住まいのオンリーワングループ

株式会社 長谷工 コーポレーション

代表取締役会長 大栗 育夫

〒105-8507 東京都港区芝2丁目32番1号
TEL : (03)3456-5451 (代表)
<http://www.haseko.co.jp>



会員の勤務先集計～名簿データより～

建築学科卒業の同窓生が7,300余名（2015年3月）にもなって、仕事の関係で付き合いが始まった会社に同窓生がいたという話も。しばしば聞かれるようになった。どんな会社に同窓生がいるのか、築理会で把握しているデータを整理してみた。

<集計方法と作表範囲>

2015年10月現在の会員データで、住所が不明ではない5,388名中、勤務先が記載されている4,256名を勤務先別に集計し、それぞれの人数が多いものについて作表した。

1ヶ所の人数トップは鹿島建設（株）102名で、初めに業種が「建設・設備」のものを集めた。次に残りの人数トップが積水ハウス（株）で業種「住宅」を、さらに残り人数トップの勤務先の業種をという手順で、「公官庁」（独立行政法人も含む）と「設計」も集計した。途中で「大学・学校」（学生・教職員とも）も集計したが、卒業年度からみて明らかに未更新と思われるものが多かったため、この「大学・学校」は作表を止めた。この4つの業種で勤務先数は全体の41%、人数は全体の過半55%になっている。

<集計結果>

集計した人数は4,256名で全勤務先は2,152ヶ所、業種別で「建設・設備」は215ヶ所（10%）969名（23%）、「住宅」は86ヶ所（4%）349名（8%）、「公官庁」137ヶ所（6%）403名（10%）、「設計」443ヶ所（21%）601名（14%）、残りが1,271ヶ所（59%）1,934名（45%）となった。（ ）内は、それぞれの全体からみた比率。「設計」はトップでも19名、全443ヶ所中9割近くが1名で、1ヶ所当りの平均は1.4名。勤務先1ヶ所当りの平均人数を「設計」と比べてみると、「公官庁」は約2倍、「住宅」と「建設・設備」は約3倍になっている。全体での平均は約2名。

集計に当り、勤務先名からは何の業種か判断できないものもあり、社名からWEB検索するなど出来るだけ確度向上を目指した。また「自営」と記入されている方もあり、その中には「設計」に集計すべき方もあるものと思われる。社名変更、合併等で、現在は1社とみなすべきものが別々に集計されているとか、既に退職された方がそのまま含まれている可能性も否定できない。

<今後に向けて>

同窓生の今後の増加に連れて勤務先数がどう変化するのか、業種別比率の傾向は変わるのか、数年先にまた集計してみても面白いのではないと思われる。「住所録」のデータ管理徹底の為に、勤務先等に変更があった方から確実に連絡を戴くことが不可欠。住所・勤務先共にデータがある方が6割弱でしかない。この比率を上げることも合せて、皆様のご協力をお願いしたい。

（飯山道久：1974年卒）

勤務先別人数（業種別ベスト10）				
業種	建設・設備	人数	住宅	人数
1	鹿島建設(株)	102	積水ハウス(株)	77
2	大成建設(株)	82	旭化成ホームズ(株)	36
3	(株)竹中工務店	76	大和ハウス工業(株)	34
4	清水建設(株)	68	住友林業(株)	22
5	(株)大林組	62	積水化学工業(株)	16
6	(株)安藤・間	44	パナホーム(株)	14
7	(株)長谷工コーポレーション	43	ミサワホーム(株)	13
8	前田建設工業(株)	31	大東建託(株)	10
9	戸田建設(株)	30	三井ホーム(株)	9
10	東急建設(株)	26	(株)一条工務店	7
他		405		111
計	勤務先数 215	969	勤務先数 86	349
業種	公官庁	人数	設計	人数
1	(独)都市再生機構	38	(株)日建設	19
2	東京都	31	(株)NTTファシリティーズ	13
3	国土交通省	29	(株)山下設計	11
4	横浜市	27	(株)三菱地所設計	11
5	東京消防庁	23	JFE(株)	10
6	埼玉県	11	(株)日本設計	9
7	神奈川県	8	(株)安井建築設計事務所	9
8	防衛省	8	(株)松田平田設計	8
9	静岡県	7	(株)構造計画研究所	8
10	文部科学省	7	(株)日総建	8
他		214		495
計	勤務先数 137	403	勤務先数 443	601

ちくご会ゴルフ

築理会では終身会員を中心として、小生が会長の時に会員獲得増強運動の一貫として、ゴルフ懇親会を企画し、毎年開催してきました。今年の春の大会は第26回目を迎えました。

現在は終身会員だけでなく、築理会関係者ならばエントリーできます。開催当時は新ペリア方式の競技で、優勝者とBMが世話役となり開催の会場・商品等の準備をしたのですが、現在はHC方式で、榎木英雄君と石井浩一君（いずれも4期）が幹事を引き受けてくれています。今年は、4月6日（水）茨木の名門コースの利根パークゴルフ場で5組17名の参加で、開催されました。今回は初出場者が3名、女性が2名参加しております。前日の雨と打って変わって、桜の花満開の中、午後から気温が上がり汗ばむ陽気となり、楽しくプレーを行うことができました。結果は初参加は優勝できない規約ですので3位であった森本が優勝しました。次回は同じ場所で11月30日です。

（森本仁 1966年卒）



平成 27 年度決算報告

決算報告

平成27年4月1日～平成28年3月31日

収入の部

部門	摘要	金額	備考
繰越金	平成26年度繰越金	2,856,174	
築理学会費合計	3,500円×224名	784,000	
	30,000円×13名	390,000	
	2,000円×13名	26,000	
	計	1,200,000	
広告収入	会報春・秋	325,080	
一般寄付		114,500	
その他	利息	42	
余剰金		22,450	
総収入		4,518,246	

支出の部

部門	摘要	金額	備考
会報	春号	997,703	
	秋号	216,206	
編集費		60,000	リニューアル+2万
デザイン料		80,000	リニューアル・デザイン
名簿	印刷・発送	0	
ホームページ維持費		168,000	
事務費		193,896	
運営費		26,610	
築理学会賞		40,000	1万円図書券×4名
りぼん買取		100,000	100部
来年度繰越金		2,635,831	
総支出		4,518,246	

平成 28 年度会費納入のお願い

現在、平成 28 年度の会費の納入をお願いしております。

同封の振込用紙にて、お振り込み下さい。

今後のさらなる築理学会発展のため、多くの方のご協力をお願いします。

年会費 3,500 円

加入者名 築理学会

口座番号 郵便局 00110 - 5 - 171952

築理学会のホームページをご覧ください

築理学会 - 東京理科大学工学部建築学科同窓会ホームページ

<http://www.chikurikai.org/>

築理学会報のバックナンバー、改正した築理学会会則、イベントの詳細情報などがご覧になれます。

インフォメーション

OB・OG と学生との交流懇親会

- * 11/19 (土) 葛飾キャンパス
- ・ 15:00 ~ ,
- ・ OB・OG の皆さん、参加大歓迎
- ・ 学生に現場の話を

『理工系の基礎 建築学—国立西洋美術館から学ぶ』(丸善出版) 出版記念講演会

場所：東京理科大学神楽坂校舎
2号館 211 教室

日時：10/16(日)15:00～17:00 無料

国立西洋美術館の世界遺産登録に尽力された山名善之先生を始め、工学部、理工学部建築学科教員が登壇します。OBOG の皆様もぜひご参加ください (講演会終了後懇親会開催予定 会費:1,000 円)

築理学会新年会

- * 2017, 1/18 (水) 18:30 ~ 20:30
- ・ PORTA 神楽坂 6F 理窓会倶楽部
- ・ 会費：3,000 円、・ 野田建築会と共催

平成 29 年度 築理学会総会・懇親会

- * 2017, 5/27 (土)
- ・ 神楽坂森戸記念館

築理学会女子の集い

場所：PORTA 神楽坂 6F 第一会議室
日時：11/5(土)

* 茶話会 15:30 ~ 17:00

会費：500 円お茶・お菓子

* 懇親会 17:00 ~ 18:30 会費：2,500 円

連絡先 e-mail: chikujo@planetgear.net

編集後記

今回の表紙の写真は理科大学の由緒ある建物 (再建ですが) 前での、1 期生から今春卒業しました 51 期生までの記念写真です。この後 50 年、101 期生が出るころには日本も、そして理科大学も大きく変わっていることでしょう。又、小さな記事として載せましたが、飯田橋駅西口駅舎、飯田橋に通われた卒業生諸氏に懐かしい駅舎ですが、姿を消しました。東京オリンピックの頃には、新しい駅舎になっているとのこと。熊本地震の記事は生々しい体験記、明日は我が身と備えだけはしておきたいと思います。

(大岩昭之)

編集長：渡辺 一男

編集委員：近藤 剛啓、天神 良久、大岩 昭之、福田 義克、石神 一郎、野田 正治、河合 康夫、飯山 道久、荒井 眞一郎、安達 功、森 清、三浦 博範、栢木 まどか

誌面構成：天神 良久、林 利也

誌面デザイン：himeyo tokuzawa